

下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議（第4回）会議録

日時：2022/07/15 19:02～20:52

場所：下諏訪総合文化センター2階集会室

出席者：武井委員、濱委員、坂本委員、西村委員、増澤委員、吉田委員、野村委員、
川村委員、萩原委員

岩波生涯学習係長、小口副主幹、堀内主査、原担当

欠席者：高木委員

事務局：

それでは定刻となりましたので、ただいまから第4回下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議を開催させていただきます。本日は高木委員が都合により欠席、教育こども課長が所要により欠席させていただいておりますのでよろしくお願い致します。それでは早速議事に移りたいと思いますが、まずお手元の資料の確認をお願いいたします。本日の資料は、次第、木曾文化公園文化ホール視察という資料、資料5下諏訪総合文化センター及び近隣施設の利用体系となっております。それでは議事に入らせていただきます。

(1) 木曾文化公園文化ホール（6月22日実施）の感想ということで視察当日の資料につきましてはご欠席の委員の皆様にもすでにお渡しをさせていただいておりますが、本日事務局から簡単に視察の振り返りをさせていただいて、その後、当日ご出席の委員の皆様から順番にご感想等をおっしゃっていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それではまず木曾文化公園文化ホール視察という資料をご覧ください。視察の当日でございますが、まず既存ホールの改修工事の概要説明ということで担当の方からご説明をいただきましたが、主にホール天井等の改修工事と空調設備等の改修工事についてご説明をいただいて、前段の経過を含めてお話をいただきました。まず天井の改修工事ですが、令和3年11月30日から令和4年7月29日にかけて行われているということで、平成19年から検討を始めたんですが、いろいろな要因があって先送りとなっていたということ。平成30年に木曾広域連合の10年計画を策定して、同じような形であり方検討会が設置され、令和3年度から4年度に渡り現状の改修工事を行うこととなった

そうです。ホール吊り天井改修工事の際には4案検討されましたが、音楽ホールに適している方法だと音楽ホールに適している方法は、準構造天井のみであることからそちらを採用したということ。

次に、空調の設備等の工事については、令和2年に検討委員会から報告書が提出されましたが、こちらの提出時点では予定していなかったそうで、令和3年の2月に冷温水機が故障したことから、急遽行われたという工事になっております。併せて研修棟についても、建設当初の木曾は涼しいということから冷房は設置していなかったそうなのですが、地球温暖化に対応して、冷房機能を備えた設備改修にされたということになっております。

そのあと皆様から事前に出していただいた質問についてのご回答もいただきましたが、こちらについては既に資料をお渡しさせていただいてるので、説明は割愛させていただきます。一通り説明をいただいた後、実際に工事箇所の視察ということで、新設する座席の説明と、あと天井裏から完成直後の天井の見学をさせていただきました。視察についての振り返りは以上となります。

それではご出席をされた皆様から視察のご感想等をお願いします。

委員：

先日、木曾へ視察に行かれた皆様お疲れ様でした。今回の改修が終わった状態で見させていただいたんですが、前回下諏訪で視察したのと同じぐらいの大きさだったホールがしっかりと天井落下防止工事がしてあってとても安心感があって良かったと思います。4案あったってということで見せていただきましたけれども、やっぱり音の響きを考えると、同じような工事になるのかなというふうに感じました。

工事の中身はわからないんですけど、そのときにちょっと聞いたんですが、令和3年から5年間延長されることになった緊急防災・減災事業債が活用できるのであれば、予算的にも楽になるのかなってというような感想を持ちました。木曾の場合は充当率100%交付税算入率70%ということでしたので、もしこちらにも適用できるのであれば、もう少し積極的にいろいろと進めていくことができるのかなってという感想を持ちました。

ちょっとこの後に控えていらっしゃる詳しい方々に感想を聞いてみたいと思うんですがとても有意義な視察となりました。ありがとうございました。

委員：

先日は大変ご苦労様でした。私も行ってよかったなと思ってるんですが、まず第1に驚いたのが椅子の件なんです。下諏訪文化センターの椅子を全部取り替えるということで数千万かかるということを知って、あんなに新しいのになぜかだというふうに思ったところ、その自動に返らないと避難に支障がある言うことを初めて知って、それなら納得できるなということで、改修すれば直るということなんで、改修する方がいいだろうなと思って帰ってきたんですが、天井の方は確かに音楽ホールということを見ると、例えば天井と壁の間に隙間があるというようなことの中で、音に問題が出るということになればもうこの4番目の方法しかなかったということだろうと思います。大変お金もかかる事業でありますけれど、耐震ということになれば、この方法しかないなと思って帰ってまいりました。工事に関して木曾は椅子を外してやってたんですが、椅子を全部取り替えるということの決定の中でやったところですが、下諏訪は椅子のバネを変えるということになれば、椅子を取らずに施工できるというふうに私は思っています。木曾では足場を組んで1回ステージを作って、その上にさらに足場を組んで工事をやるということになってましたので下諏訪の工事で椅子があっても支障にはならないと私は思ってますので、そういった内容で契約してもらえれば。とりあえず以上です。

委員：

二つお話したいと思いますが一つは、皆様ご指摘のように下諏訪の天井を見せてもらうと、背筋が寒くなる、こんなことでいいのかなというふうに感じて、自分の家や一般家庭での現状はもっとしっかりと格子型に安価金物で組んでそれにボードをつけていきます。あれではいつ落ちるかわからないという。そういうことを考えると、一日も早く工事をすべきだと思いますし、工事やる場合には順序だててやる。このまま放っておくことはできない。それからもう一つは工事とは関係ないんですが、行って見て、小さな街の中の、山間部に文化センターがあるということで一体どこでどうやって人集めるんだろうかと思ったんですけど、いろいろ考えてみると、木曾は、縦に細長くて、小さな街がずっと続いているのでもう車はかなり発達しているか、もう日常生活にもかなり密着しているので時間をかけて出ていっても苦にならないのかなと思いました。競合する施設も特にありませんので成り立っているということだというふうに感じました。それと同時に、下諏訪はある部分競合する場所もありますから

それらと競っていったいかにお客さんも使いやすく集めるっていうことができるのかなと思いました。

委員：

先日はどうもお疲れ様でした。皆さん言われた通りですが天井と空調でかなり大がかりな工事になるなと思いました。木曾も何年か先送りになったり、それからやっぱりこういった同じような検討会をされてきていて、こういう形のものが通ったということで、よく通ったなっていうような感じもしてますし、起債の話が出てきたと思うんですけど、それはどのようになっているかちょっと私にはわからない部分がありますが、下諏訪の場合もそれを使えるのであればどうなるかなっていうことも思いました。また、木曾の視察をしてこの天井なら大丈夫だなと、下諏訪も同じような感じになるんだなと感じました。それとさっき別の方も言われてましたが、人口も少ない中であれだけのホールをこれだけお金をかけたりしてよくやっていたなっていう感じもして、稼働率なんかも出てますけれども、見ると何か下諏訪とそんなに変わらないなっていうふうに思いましたが木曾の中ではホールが一つしかないとのことで、そういう意味ではさっき言ったように下諏訪は競合がいっぱいあるし、各市町村1つずつある中で下諏訪町1万8000ぐらいの中で1個っていうことになれば同じようなことかなと思いますけれども、ちょっとその辺はよくやっているなというふうな印象を持ちました。

委員：

先日は皆様ご苦労様でした。私は下諏訪文化センターの天井を見させていただいたときにも、大変な工事になりそうだなと思ったんですが、木曾に伺って実際の工事を拝見して、少しイメージがつかめました。一番先に感じたことは、緊急防災・減災事業ですか、それをいただく場合にはタイムリミットがあるっていうことは、すごく大事なことで、それを利用しないと、にっちもさっちもいかない金額なので、それに沿って逆算して、それだけは何とでもいただくように、特に防災に関しては100%っていうような話もあったので、それをみんなが検討する際に心に置いて、その補助金をいただくようなしなきゃいけないのかなっていうことは強く思いました。あと、工事大変大規模で椅子が下諏訪の場合、避難所になってるわけですから、いかに避難するかということで、椅子のスペースということがすごく重要な問題で、自動で上がると

か、その間の肘掛けの位置を少し下げてスペースを確保するっていうことも避難所としての機能から考えると大事だと思いました。ただ、椅子を少し変えて上に先ほどおっしゃってくださったように、ボードがあってその上に足場を組んでできるのかどうか、私は素人考えでわかりませんでした。木曽の場合は全部外して工事しておりましたが、それが何らかの方法で今の椅子も使えて、少しの改修でできるならそれに越したことはないなと思いました。木曽の場合は、自然環境のいいところ、逆に言えば、利便性からいったらちょっと外れたところにあります。多くの町村で利用しているせいか稼働率はちょっと下諏訪よりいいなと思うのですが、下諏訪と使い方では違う面があるので、その辺はまた別に考えていかなきゃいけないかなと思いました。大変有意義な見学でありありがとうございました。

委員：

天井裏の工事を見せてもらったんですけど、想像以上に大規模だっということがわかりました。色分けして、鉄骨で補強したところとそうでないところと細かく説明いただいたんですけど、かなり手を入れている工事だと思っていました。

5月の下諏訪町の見学は参加できなかったんですけど、ほぼ同じような構造になるというので吊り天井の構造とはだいぶ違うなと。現場を見て思った第1印象です。やっぱり災害ときの避難所になるということで、予算補助を受けているというのが大きいと思いました。木曽も人口は下諏訪の何分の1ぐらいなだけで、面積が10倍とか、さらに広域連合の中の拠点というところで、下諏訪よりも全然広範囲でいろんな市町村が活用しているっていうような話もありました。

また、当日設計業者がいらっやあって、担当の人に契約等はどやってたんですかっていう聞いたんですけど随契と聞きしましたので、長野県全体でどこまでが木曽の業者さんってわからないんですけど、随意契約なのかということちょっとこの会議でも話題になったんですけど、やっぱりそういうことなのかなということで、そこはちょっと疑問に思いました。ただ工事は入札してたって聞きしました。その辺のコストメリットっていうかちゃんとそこら辺の予算のところは、一応勘案してやっているのかなと感じました。

事務局：

皆様ご感想をいただきましてありがとうございます。また本日いただいたご感想は、計画を作っていくところで参考にさせていただいて反映させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。あと視察をご欠席された皆様方には資料を見た感想なども含めて、具体的な目標をお話していただくときに合わせてご発言いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは(2) 下諏訪総合文化センターの具体的な目標《方策》について、事務局の方からご説明申し上げます。

事務局：

それでは資料5(追記版)をご覧ください。第1回第2回の会議で理念という部分についてお話をさせていただいてきました。皆さんのお持ちのお考えを踏まえまして、将来の姿、どんな姿を目指していくのかというところについて1ページの方にまとめさせていただいております。その理念に向かって何をしていかなければいけないのかというのが今日のお話になってきます。2番の具体的な目標の検討というところをご覧ください。まず具体的な目標を考えるにあたっては、文化芸術基本法の第4条に自主的かつ主体的にその地域の特性に合った政策を策定するというのが記載されております。2ページをご覧ください。

劇場、音楽堂等の活性化に関する法律第3条において、劇場、音楽堂で行う事業が規定をされ、また同法の16条に記載されている通り、文部科学省から告示された指針の中で、必要な措置を講じることということで求められていたのがAからHの項目になります。それでこれを踏まえまして、将来の姿に向かって下諏訪総合文化センターがどのような活動を行っていくかというお話となります。

これまでに皆さんからいただいたキーワードになるような言葉を並べさせていただき、イで構成と内容このような形でまとめさせていただければなという考えでもってご提案をさせていただきます。項目についてはまずその指針で構成されているAからHの事項に沿いながら、法律に書かれている行うべき事業について①から⑧のものについて構成をさせていただきたいと思って①という形で書いております。質の高い事業の実施に関する事項という部分に対しては、①の公演の企画開催という事業に当たりますのでこれにあたっては〇〇をしていく、それが目標となります。そのために〇〇するように努めるっていうのはこれから短期的に行っていくことという形の構成にさ

せていただきたいなと思ってます。この項目についてどのようにお考えになるか、またこの項目で考えるんだとすれば、どのような目標をこれから行っていくことが考えられるかということをご意見をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

事務局：

事務局の方から説明をさせていただきましたが、今までも皆様の方からこんな方向性がいいんじゃないかというようなご意見いただいておりますけれども、次回そのあたりのところも具体的にまとめさせていただければというふうに考えております。それにあたって今までの会議でご意見をおっしゃっていただいた内容や、視察で感じたことも踏まえて文化センターがどのような方向性を目指して運営していけばいいのかという点について、委員の皆様から自由な発想で結構ですので、改めてご意見をいただければと思いますのでお願いたします。

委員：

すごく項目名がおおくて資料5追記版で言うと、まずどこかの絞って検討していかないとちょっとどこから申し上げていいのかわからないですが全般だとちょっと多すぎて難しいです。

事務局：

3ページの具体的な目標の構成と内容(意見交換)というところに対してお話をいただきたいと思います。まずAの質の高い事業の実施に関する事項というところで、①の公演の企画開催にあたっては何をしていかなきゃいけなければ、そのために短期的に何をしていくのかっていうところのお話をまずお聞かせいただければと思います。

委員：

それが(2)の中のイですね。

事務局：

そうです。3ページになります。

委員：

何かその前の（２）のその具体的な機能性、居住性とか緊急性とか、その辺が私は何かいかに質より前に、いかに多くの人が活用するかっていうことがまず課題だと思うんですよね。こういう高い理念とか、そういうこと以前に思う面では私は（２）の地域性とか、その居住性、緊急性その辺がすごく大事だなと思ってます。質の高い事業の実施、1番の公演ですね。これは、私達もいろいろ企画する中で今一番大変なことは人に集まってもらうことだと思っていますので、質の高い事業をしてもそれにどれだけの人が参加するかっていうと、参加してこそ質の高い事業が生きてくるってことなので、ちょっと具体的には、みんなの意見をもうちょっと幅広く聞くってことぐらいしかちょっと思いつきません。

事務局：

今いただいたご意見と同じような形で質の高い事業の実施に関する事項のことについて引き続き皆様からご意見をお願いします。

委員：

難しい質問ですが、ここに立つ項目いろいろいろいろありますけど、まず質の高い事業、公演ですか。企画開催にあたって、何をしている、そのためにどう努めるかということで、いかに多くの人を利用できるか、あるいは例えば公演を行ったら、それに集まって来てもらえるかっていうことがやはり重要になるし、要するに稼働率というかどんな形でも人が大勢集まる。公演なども人が多くの人が集まって気楽に利用できる文化センターにしてほしいし、そのために天井の工事とか質の高い公演とか、使いやすいホール、安全なホール、快適なホールにしていくということで、多くの人を集めているような公演をどんどん企画できればいいのかなと。あるいは、コロナの関係もあるので非常に難しいんですけども、出演していただけるいろんな団体をどうしていけば集められるのかなってというのがやはり一番大事なところだと思います。

委員：

先日の視察は急用ができてしまい行けずに申し訳ございませんでした。資料をちょっと見させていただいて、本当に下諏訪と同じ状況であって、現在進行形でやっ

っていうことでぜひ見に行きたかったんです。いろんな委員から話あった椅子の問題、立ったときに自動に立ち上がってということが、緊急で何か危険なことが起きたときに避難できるっていうことですか。そういうことが結構問題であるというのは、なるほどなって思いました。まず天井ということに関しては、下諏訪町は防災日本一を掲げている町だと思いますので、災害のときに最低限のものがあるよというよりむしろ、そこまで防災を意識されてるなっていうものがホールだけじゃなくて全体の施設として、そこは町の特色として一つ打ち出してみても、そこで補助金がしっかりとれるようぜひ町職員にもアピールしてもらって災害に強い文化センターとして、いざというときにはここが起点となっていていろんな災害に対応できるっていう場所であってほしいなっていうのは思いました。

それと木曽でいいなと思うのは作った当初からの話かもしれないですけど、木曽ひのきを使ったり地域性があるっていいなっていうのがあって、下諏訪でも地域性を出せればいいなと思いました。

それで、ちょっと自由な話をさせてもらって申し訳ないんですけど、ちょっと質問をいくつかして聞いてもいいですか。まず文化センターでこういう町の音楽ホールとかの施設では大体のどこの市町村も教育委員会の管轄になってるって感じですか。

事務局：

そうですね教育委員会が管轄するケースが多いです。

委員：

ありがとうございます。それで、ちょっとこれまた余談なんですけど本来の理念の方まで少し見返す中で、例えばこのゴールに対して、何かその理念を表してるロゴとかはあるのでしょうか。例えば下諏訪町には下諏訪町のロゴがあると思いますし、そういうのは現在ないのでしょうか。

事務局：

文化センターのマークはあります。

委員：

どういう意味合いが込められてロゴマークがあるのか個人的に興味があったのでお聞きしてみました。あと毎回たくさん資料を作っていただいて本当に頭の下がる思いで、これだけ資料作っていただいているので、いいもので出来上がったという全員が賛成とはいかないかも知れないけど、本当にいいものになったねと言われる施設になればいいです。それだけ苦勞をされてると思うんで。この全部の項目にちょっと今すぐには目を通せないんですが、その具体的な目標、質の高い事業というところで、一つは特に公演というところで、ちょっと私も人から聞いた話の中で正しいかわかんないですけど、他施設ではプロモーション、プロモートする専門家が入っていると思うんですよ。

私一度お会いしたことがあるんですけど若い人がそういう専門学校を出て、そういうマネジメントをしてアーティストを招致したりだとかそういう人が入ってると思うんで、もしそれが可能であればそれは専門なんで、どうしても役場職員だと異動とかもあると、またそのゼロから勉強しますっていうところは難しいと思うんで、そこはうまく外の人が入っていければ、その事業というところがとても気になるなとは思いますが。あと去年ですが海外のアーティストが日本に来て、その演劇とか音楽とかを小さい子供に見せるっていう割と世界的なイベントがあるんですが、その日本での最初の公演が東京と諏訪の2か所で行われたんですが、それは確かに茅野の館長さんの関係で諏訪に持ち込んできて、そのうちのいくつかの公演が下諏訪で行われたんですよ。うちの子がそのオーケストラとかそういうのを身近で見たりとかそういうことできて、特に子供がいる人ってあってあんまり遠出できないし、日本でも東京と諏訪でしかなかったものがたまたま諏訪でやってくれたんで、そういう意味ではよくアンテナを張って連携して、一つの場所で機会を持ってくれるわけじゃないけど、複数でやれば音楽祭的な雰囲気にもなるし、そういったときにお互いの方で連携し合って、やると一つの市町村じゃなくていろんなところで、それを機に下諏訪に来てもらうこともできたと思うんで、それはすごくいい企画だったなって私は思います。ちょっと私の身近にあった例で申し訳ないですけど、まずそういう縁とかをうまく掴んだりだとかあるいはそれを掴むために専門の人を入れるとか、そういったところが一つ考えられるかなとは思いますが。

あと木曾は人口が少ないけど割と使われてるっていう話を聞いたんですけど、それが近隣の市町村の人の利用が多いってところで言うと、下諏訪って小さな町ですけど、小さいということはどういうことかという、隣の市町村が近いですよ。なので、下諏訪に人が入りやすいっていうのも一つ大きなことなんですけど、割とよその市町村も、気兼ねなく使える施設であるということを宣伝して下諏訪町にフォーカス当てたり、難しいところもあり町の税金とかそういう話もあるかもしれないですけども、そこはまずこの諏訪の平全体でそこでよそからもわざわざ使いたいと思ってもらえる施設になればなおいいなと思います。

委員：

今この資料にあります具体的な目標の構成と内容ですが、これを見たときに感じたのが、これは何か僕らに対するテストかなというふうに感じました。というのはこれにはもう正解があるんじゃないかと。僕らがいろいろ言うんじゃないかと、もっと具体的に何かあるんじゃないかなっていう風に思います。今振り返ってみて自分がこの会議に手を挙げたのは、諏訪地方は音楽が非常に昔から伝統的に盛んな地域だと思うんですよ。諏訪地方出身の音楽関係の方々が国内外で多数活躍されているなど音楽と非常に関わりの深い土地なんです。しかしながら、とある楽団の発祥が下諏訪なのにもかかわらず、練習場所すらないということで、流浪の民であちこちを渡り歩いているということを知りましたのでその楽団のためにこの下諏訪の文化センターを提供できないのかという話をしたら、いやもう今その話は別の市町村が既に資金援助をしてるというふうに言われました。それから先日定期発表会が別のホールであったときに、その市町村長が来場してました。そうやって首長自ら出てきてますとこれはもうかなわないなという気がしました。下諏訪出身の著名な指揮者の方をもっと下諏訪町が活用してそしてもっとアピールすれば、下諏訪にとっては非常にいいことじゃないかと思っています。この間もちょっとお話ししたと思うんですけども、岡谷から音楽好きの小学生の頃、休憩時間にその方のサインをもらいたいということでサインをもらい子供たちはすごく感激して帰りました。そういうことがまさに今ここに書いてある。地域住民地域の子供たちとの触れ合いとかそういうところに繋がって来ると思うし、例えば前のときにその方の演奏会の資料を全戸配布してもらいたいという話をしたら、これが厳しいということでしたけれどもやはり下諏訪が生んだ世界に羽ばたく人なんだから、率先して町が町民にアピールしていくっていうようなことをしてい

けば、人集めに四苦八苦するという事はなくなる。本人が前日まで同級生に電話をかけて、来てくれ来てくれというふうにお願ひしなきゃいけないなんて事は恥ずかしいことだと思うんで、やっぱり音楽活動に専念できるように、僕らがバックアップしてなきゃいけないということで、そのためには行政もやっぱりそれを応援してほしいというようなことを痛切に今感じております。これからの僕らもそういうことをやっていくことによって指揮者の方も今度子供たちに触れる場面を作ってくれると思うので、お互いにこれからいい方向に向かっていけると思うので、ぜひとも自分は個人的にここからはちょっと外れてしまいますけれども、何かそういったことをこれからだんだん考えていけばもうちょっと何とかなるんじゃないかなと思っています。ただこれをちょっと貶したみたいでいけないんですけど、こういう資料をを作っていたいただいた皆さんのご苦勞に本当に敬意を表します。

委員：

事務局の方から質問を受けて、何を答えればいいかわからないというのがまず第1印象でした。他の3ページのイにAからHまであるんですけど、ほとんどが専門的なことであって我々はわからない部分があります。ただ、最後のH安全管理に関する事項ということで、この建物をどう安全にするかということぐらいは話ができるかなと思っておりますが、私の感想でまず下諏訪総合文化センターを避難場所に指定してあるということで、現実的に700席が固定されていてそこへ避難をしてもテント張れるわけではない、ダンボールブースも張れるわけではないということで多分一時避難、例えば河川が氾濫しそうだから避難をして、椅子へ掛けて一晩何もなかったら家に帰ると多分そういうぐらいの利用しかないんだらうかという、本当に災害があったときにその場所が避難場所になるかっていうと絶対ならないっていうふうには思うわけです。

ただ公演を聴いている人、使ってるときに天井落ちたらどうするかっていう問題がありますので当然、安全を確保しなければいけないということで天井補修をしたり、避難通路を確保するっていうのは当たり前なことだらうというふうには思うわけです。ただ、補助金をもらうには避難施設にしなければ補助金もらえないというのはこともあるんだらうと思うんですが、それはそれで置いて700席の文化センターっていうのは現実的に例えばメジャーなミュージシャンを呼んでプロモーションやるかっていうとまずやらないんですよね。儲からないし逆に赤字になってしまうということになりますから、当然若者たちが聴きたいミュージシャンがこのホールを利用するこ

とはまずないだろうとなれば、地元の楽団だとか高校生のブラスバンドだったり、合唱団等々が発表するかというふうに使われていることが多くなっていくというふうになるというふうには思っています。演劇だとかそういったものもやっている人もいますけど中央から呼ぶことはまず不可能に近いということになれば、文化センターはやっぱ地元等の芸術の貢献に使われるってことが主になっていくというふうには思っています。この質問のAの、公演の企画開催に当たってはということですが、現実的に公演は地元の公演ということになっていくんだろというふうには思っていますね。例えば公演者の利用にあたってはどうするかというと当然利用しやすい建物であること、それから安全であるということが大前提にあるだろうというふうには思っています。BからCとかDという専門的人材の育成の確保とか言われても私どもわかりませんので、町の方でどうするかということを決めてくるんじゃないかというふうには思っています。いずれにしても700というキャパに関してはやっぱ地元で利用するしかないというふうには思っていますので、魅力のある、例えば人を呼びたいということになればあるいは見たいという人があれば、当然遠くまでも出かけて行ってみたいということになりますし、このあたりで一番大きい2000人規模のホールでやることができるって言うても超メジャーな人は絶対来ないんですよ。なので地域の文化ホールってのはどう使われるかっていうふうには思っていますので、それに対してどうするかってことを考えていければいいという、いずれにしても文化施設ってのは町が相当負担をして赤字覚悟でやっていくものですから、そこで黒字にしようなんていうことを、ここに経営安定化に関するというのがありますがこれは無理でしょうというふうには思っています。そんなことをちょっと思いましたの意見として述べさせていただきました。

委員：

木曾の視察の方のまとめ、ありがとうございました。大変参考になるんじゃないかなと思います。やはり読ませていただいて、お聞かせいただき、防災面、避難所としての機能ってのは最優先に考えていきたい内容だなということを思いました。ホールの活用についてですけれども、集客数利用のことについては、催しの内容勝負かなってことを思いますけれども、やはり地域の方、地域のニーズに合った事業を企画することが重要だと思います。子供を介して地域の方が交流できるものであると

か、私達が育てた人材を呼んでそこで披露してもらうだとか、私達はそういうことで、貢献したいと思います。

以上です。

委員：

私が所属しているのは子供から大人までいるダンスチームで年齢が近い人から、一番下は2~3歳までいるんですけれども、この会議が立ち上がってから今日に至るまで時間がありましたので、いろんな人といろんな他の団体の方々にも聞きましたところ、私のところにはこの具体的な目標のno1, 2, 8に該当する希望が山のように寄せられました。具体的なところの中で画期的な意見もありましたので、せっくなのでどこまで切り込めるかはともかくとして、今ここで出た意見をそのまま述べさせていたいただきたいと思います。前にも言いましたけれども、外の噴水前みたいところに高校生やダンスチーム軽音なんか披露できる場所が欲しい。これ諏訪で諏訪湖マルシェというのが、毎週行われていたんですよね。そこだと今のホールの中の営業に差し支えはないんだけど、キッチンカーが来て食べる場所があってちょっと小さいステージがあってそこで発表もできる。だから毎週土曜日だか日曜日になるとそこに人が集まって今週はどの車が来てるのかなっていうふうになら集まるってような、ことを行っているのでもんなような使い方をしたい。

先ほどから、こちらで大きなアーティストを呼んでもおそらく人が来ないだろう、それ確かなんですが、一つあるのが、インターネットの生配信ができる設備がほしい。小ホールぐらいでもいいんですが、東京なんかで行われているイベントやサッカーとの試合なんかのライブビューイングをこちらへ持ってくる。そうすればすぐメジャーな人でも、東京でやってる公演がこちらでも同じように見れる。逆に、東京でやるよりも安い金額で、日本中にアーティストが配信することができることで利用が増えるんじゃないか。最近ライブ配信に関しては私もいろんなところにお手伝いをさせていただいているんですが、必要なものっていうのは高速インターネットの環境と、それに耐えうるルーターのみってことで、うちでやったときは本当に事務手数料3000円と、新しいルーターが4万円ぐらいでできました。配信した人たちは機材を持ち込んでくるので、こちらで用意したのはそれだけでそれでもずっとインターネット配信してくれています。ライブビューイングの方は専門の会社があるのでこちらでできるかどうかわからないんですが、夏休みの子供劇場とかで映画なんかをよくこのホールでもやってるので、同じような形で積極的にそういうものを呼べば、まああの音楽ホ

ールとして生の音を聞くっていう部分からは外れるんですが、利用者数自体はとも増えるんじゃないかと思います。

それから利用の仕方についてこれも前回と被るところがあるんですが、ホームページの充実をしてほしい。具体的には例えば芸能祭だったら応募フォームがあるとか、あと、よく他の団体で自治体がやってるんですが公式のTwitterやFacebook、Instagram、TikTokなんかで配信しているところも結構あります。市長さんがTikTokですっと15秒間の動画を配信しているという自治体もあります。こういうものも積極的に使っていってもらって、前回も言いましたオンラインでいろいろ予約できるようにしてほしい。ホームページの作りとしては、ここにはなかったですけども、伊那文化会館のホームページがすごく見やすかったです。あの見たいところが全部載っていてそこに予約システムがついてれば完璧かなとちょっと思いました。

設備に対する希望もいくつか出ています。これほとんどの人たちが口を揃えて言ったのが軽体育室に鏡が欲しい。今ちょっと小さい鏡があるんですが、一面大きな鏡を付けてほしいそれがあればそこは完璧だと。ちょっとドアが重くて子供の足が引っかかって夏場なんかは、裸足に子供が引っかかって危ないとか、そんなような意見がありました。地域社会の絆の維持および強化というんですが、これもまた具体的に話が出ていまして、下諏訪のこのホールがしまって2年後くらいに新しく予約が可能になったときに、現時点で登録している団体には、例えば1週間や1ヶ月程度優先的に予約をさせてくれないかということですね。その後一般の予約をできるようにしてほしい。

それから、このホールおそらく、改装が終わったときにこけら落としをやると思うんですが、それにみんなで参加したい。例えば外で消防がラッパでファンファーレも行って入ってくると、左右に生け花とか、写真が飾ってあったりして、写真の団体にこの工事の最中も撮ってもらったりしてそれを飾って、諏訪響の室内楽が流れる中、大ホールにいくとそこで歌とか演奏とかダンスが披露される。そんなようなこけら落としをみんなで祝いたいというような意見が出ました。やっぱりどうしても地元が一番になるのは確かだと思います。この間、木曾の方ではそういうのは一切ないということでしたけれども、今の皆さんおっしゃる通り競合施設も山ほどあって何度も話に出ましたけども諏訪響だってもう下諏訪では数年そしてない状態ですから、もうちょっと下諏訪を使いたいって思うような、それから下諏訪のホールに来てこのイベントを楽しみたいってことをやっていっていただければいいなと思います。ちょっと

いろいろきた意見を全部、勝手に言わせていただきましたけれども、具体的にはそういう意見がたくさん出ました。よろしくをお願いします。

委員：

この資料は5月に資料として配られたんですけど、ちゃんと読み込みができなくて明確にお答えできないところもあるんですけど、ちょっと思ったことがあって他市町村のホールの話をしたんですけど、今度そこで演奏会やるんですけど、そこは最初から民間が入って、ちょっとその地方自治体と離れたような感じですけども、この質の高い事業の実施に関する事項とかっていうのをちょっと見て、これ誰がやるのっていうのはちょっと思って。というのは、私はホールを借りる立場なんで自分たちの演奏会とか、皆さんいろんな団体の公演があって企画をする中で、場所を例えば下諏訪だったり他だったり自分たちで探すんですけど、この内容を見るとホールを誰が盛り上げるのかというところが結構重要だと思うんですね。これ多分今の自治体じゃ無理だと思います。やっぱり人足もあるし、アイデアもあるし、これ一貫性の連続性のあるものというのは、やっぱり専門でずっとやってる人とか経験がある人がやった方がうまくいくんじゃないかなと思います。今もそうなんですけどいろんな自治体のホールを見ると、やっぱりそういう動きがありますよね。例えば、ちょっとこのソフトを作るのってすごく難しく、これハードの問題もあるんですけど、どうやって楽しい企画をもっといろんな形で可能性を考えてやった方がいいんじゃないかなと思っていて、この質問リストがずっといろいろありますけど、やっぱりAとかBの人材育成これ誰がやるのって。下諏訪町の職員の方なのか、例えばボランティアで集まった下諏訪総合文化センターの何かそういうスタッフそういう組織を作るとか、そういうことも考えた方がいいのかなってちょっと思いました。使う立場からすると、借りておしまいになっちゃうんですけどやっぱりホールに一貫性を出すっていうのであれば、それが重要かなと思ってます。なのでこの前、木曾の文化ホールを見せてもらったんですが、仕組み作りっていう意味ではそういう企画とか運営やっているところからいろいろ情報収集した方がいいんじゃないかなと思いました。ちょっとまとまってないですけどちょっとそんなことを感じました。

以上です。

委員：

私は劇場を管理してる方の立場で言わせてもらいますけども、質問よくこれだけまとめていただいたなということちょっと思っておりますけども、まず最後のHそれからその前のGについて経営の安定化は自治体でちゃんとやってほしいと思います。

安全管理については、先ほど別の委員からもありましたけども、もうハードの話になってくるので、これもしっかりやってもらうことだと思います。問題はAからの話なんですよね。まずAの質の高い事業を実施する、これ非常にかっこいいんですけど、まず質の高い事業をやるにはお金がかかる。お金がないとできませんっていう話になります。それでそれがプロなのかアマなのかということになると思うんですけど、買取事業みたいなことやるっていうことになると、やはりこれは先ほどもありましたけども、700のキャパでペイできるものっていうとほぼ限られてきちゃうと思うんですよ。例えば落語の1人会とか、そういうようなジャンルになってきちゃうんだろうなと思います。それで本当申し訳ないですけど、役所の職員が2~3年で異動して引き継ぎがうまくできないという状況ですと多分これはうまくいかないと思います。

それからその次の人材専門的な人材育成、これこそ本当に数年で異動されて、5年経つと今いる人誰もいませんというような状況ですと専門的な人材というのはまず育たない。で、今そういう専門的な人材を育てる。育てるというよりも、もう指定管理者の中でやってるんですがここは直営なんですよ。そうすると、おそらく専門的な人材を育成するっていうような体制になってないんですよ。これをやるということになると、事業を計画するのに市民から事業案を提案してもらって、それを自主事業として扱うかどうかっていうのを審査して、それで年間いくつかの団体の人たちを会館の実施事業として取り上げてやってるっていうことでやってるようです。なので基本的にはこういう事業を進めていくっていうことになると、そういうチームを作らないと多分無理だと思います。それに付随した予算もちゃんと盛ってもらわないと多分無理だろうと思います。それで何回か前にも言わせてもらいましたが、諏訪湖一円で競合ホールがいっぱいあるんですよ。例えば1500を超えるキャパでやってるところと競争して、有名なタレントさん呼んできて事業をやるといっても下諏訪はキャパが700なので満席にしても700となる。それでは非常に苦しいので向かう方向としては、地元の人たちにいかに使ってもらってという方向に向かっていくべきではないかと思っています。それにはそもそもルール改正が必要なんじゃないかなっていうふうに思うんです。自治体としてできるかどうかは別の話ではありますが、フリートークなので好きに言わせてもらいますが、まず地元の人たち優先で借りれるのか、あとはこの

ホールは一般的に言うと非常に安い金額だと私は思うんですけども、でも地元の人たちに聞くと、それでも高いという意見が多い。そうするとどのくらいの価格だと使いやすいかっていうのをね、この会議とは別のチームを立ち上げて検討するとかしないとか、多分ソフトの話は立ち行かないんじゃないかなっていう気はしますね。それで、あとはもうこの地域はやっぱり御柱に代表されるように、絆や地域の連携っていうのは他の地域じゃ見れないほどの連携がなされているんじゃないかと僕は外から見ると思うんです。なのでそういう企画チームみたいな作って運営していくっていうのも一つの手なんじゃないかなと思います。それで地元で著名な関係者の方もいらっしゃるのです。そういった方に旗振り役になってもらうなどして、何かお祭りのものを企画したりとか、そういったことから入っていかないと有名な人呼んで終わりっていうのでは一過性のものなので、そうじゃなくてやっぱりそのいかに地元の人たちがこのホールを使いやすくするか、それとあとはせっかく今度天井改修して響きも今と変わらない非常に良いのであれば、やっぱりその子供たちがいかにここを利用するかっていう、その機会を提供してあげる方策を考えてもいいんじゃないかなっていうふうに思います。今のこの利用率だと10日のうち2日しか使っていない感じになりますよね。残り8日間空いている訳で、例えばスポーツでもそうなんですけどクラブチームってあるじゃないですか。地元のジュニアオーケストラとか、合唱だとかをここを拠点にして何か練習プログラムを作ってあげるようなことを自治体として何かできるのであれば、多分そういうところを目指した方がいいんじゃないかなというふうに思います。利用率の高いホールでは逆にこのことはできないです。利用率の高いホールでそんなことしたらそれで喧嘩になっちゃいます。毎月毎月抽選会にも20人から30人ぐらいの人たちが来て抽選してる状況なんで、ちょっとできないけど逆にこういう地域に密着した会館というのは、そういうところで利用率を上げるべき。放っておいても金がかかるんですよ。これ、結局保守点検やらなきゃいけないし、電気は供給しなきゃなんないしって話なんで、使ってもらってなんぼっていう、なんかその発想をもうちょっと柔軟にそれぞれのワーキンググループを作って、やっていくみたいな方法がいいんじゃないかなって思います。

事務局：

この運営方針というものがとても大事だと思って、できるだけ皆さんの意見を吸い上げたものを作りたいという形でやってきてます。なので、ある意味この運営方針

がしっかりしたものができないと改修には結びつけられないとは思っているので、そんなところちょっと難しいっていう確かに急なところはあつたりしますけれども、その辺はご容赦いただきたいなと思っています。なので基本的な運営方針に基づいた改修計画将来文化センターどんな運営にしてそのためにどんな改修が必要なのかっていうところを、を取りまとめてそれを自社にするという方針ではやってるところはご理解いただきたいと思ってます。

次回の会議に向けて、皆さんお願いしたいことをお伝えさせていただきます。

今、検討いただいている運営方針というのが最重要だと思ってますので、これはどうしても作りたいです。そうしないと、何のために改修するのかわからなくなってしまいますので、資料の4ページ以降に今までのご意見を踏まえ作成した例というものを載せさせていただいております。何をしていくのかというところの目標のご意見をおまとめいただき、次回お話をいただければと思います。

あわせてその目標のためにどういうことをしたらいいのか。

今日もたくさんヒントになるようなものや課題になるようなものをいただいておりますが皆様の方でもこの目標というところ、またこれから取り組んでいくことっていうことをお考えいただき次回、発表していただきながら皆さんで取り決めたいと思います。そんなことをお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか？よろしく申し上げます。

委員：

取り決めるということは、文言を決めるということですか。

事務局：

そうです。

委員：

全員から出た意見を、話し合っ一つにまとめるということですか。

事務局：

次回では皆さんのご意見をいただき方向性を決め、それらを踏まえ事務局でまとめたものを次回の次回に改めて提出して、最終決定という形にしたいと考えております。

す。目標に対してこういう方がいいんじゃないかとか、こういう内容を盛り込んだ方がいいんじゃないかっていうものを考えていただきたいなと思います。極端なこと例えばこれではだめだなどはっきり言っていただくことでも構いませんのでよろしくお願い致します。次回ご意見をお出しいただき、取りまとめをしたいと思いますので、併せてよろしくお願い致します。

では、最後に事務局の方から次回の会議でございますが、予定通り7月29日の金曜日の午後7時から行わせていただきたいと思いますと思っておりますので、また来週中に郵送にて改めて通知の方はさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いをいたします。

それでは長時間に渡りありがとうございました。

以上で第4回調査の総合文化センターのあり方を検討する会議を終了いたします。ありがとうございました。